



Japan  
Food  
Research  
Laboratories

第 11001086001-05 号  
2011年(平成23年)02月14日

## 試験報告書

依頼者 株式会社 ラビジェ

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 バスターメイト #1200

表題 抗菌力試験

2011年(平成23年)01月07日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 抗菌力試験

### 1 依頼者

株式会社 ラビジェ

### 2 検体

バスターメイト #1200

### 3 試験目的

検体の大腸菌(血清型O157:H7)に対する抗菌力を試験する。

**(測定様品對大腸桿菌(血清型O157:H7)的抗菌活性)**

### 4 試験概要

検体に大腸菌(血清型O157:H7, ペロ毒素I及びII型産生株)の菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し, 30秒並びに1及び3分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

**(用大腸桿菌の細菌溶液(血清型O157:H7)接種標本後(以下稱為“測定溶液”), 在室温下保存, 並在30秒, 1分和3分鐘後, 保存測定溶液。測量其中的活細菌數。**

**預先進行了初步測試以檢查測量活細胞計數的方法)**

### 5 試験結果

結果を表-1に示した。また, 培養後の生菌数測定平板を写真-1~5に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。**(結果示於表1。照片1至5顯示了培養後的活細胞計數板。通過初步測試確認, 通過用SCDLP培養基將測定溶液稀釋10倍, 可以測量活細菌的數量而不受樣品的影響)**

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数(/ml)			
		開始時*	30秒後	1分後	3分後
大腸菌 (O157:H7)	検体	$1.3 \times 10^5$	<10	<10	<10
	対照	$1.3 \times 10^5$	—	—	$1.3 \times 10^5$

<10: 検出せず

対照: 精製水

保存温度: 室温

—: 実施せず

\* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し, 開始時とした。

## 6 試験方法

### 1) 試験菌株

*Escherichia coli* ATCC 43895 (大腸菌, 血清型 O157:H7, ベロ毒素 I 及び II 型産生株)

### 2) 菌数測定用培地及び培養条件

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混積平板培養法, 35 °C ± 1 °C, 2日間

### 3) 試験菌液の調製

試験菌株を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35 °C ± 1 °C, 18~24時間培養した後, 生理食塩水に浮遊させ, 菌数が $10^7 \sim 10^8$ /mlとなるように調製し, 試験菌液とした。

### 4) 試験操作

検体10 mlに試験菌液を0.1 ml接種し, 試験液とした。室温で保存し, 30秒並びに1及び3分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し, 試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお, 対照として, 精製水を用いて同様に試験し, 開始時及び3分後に生菌数を測定した。

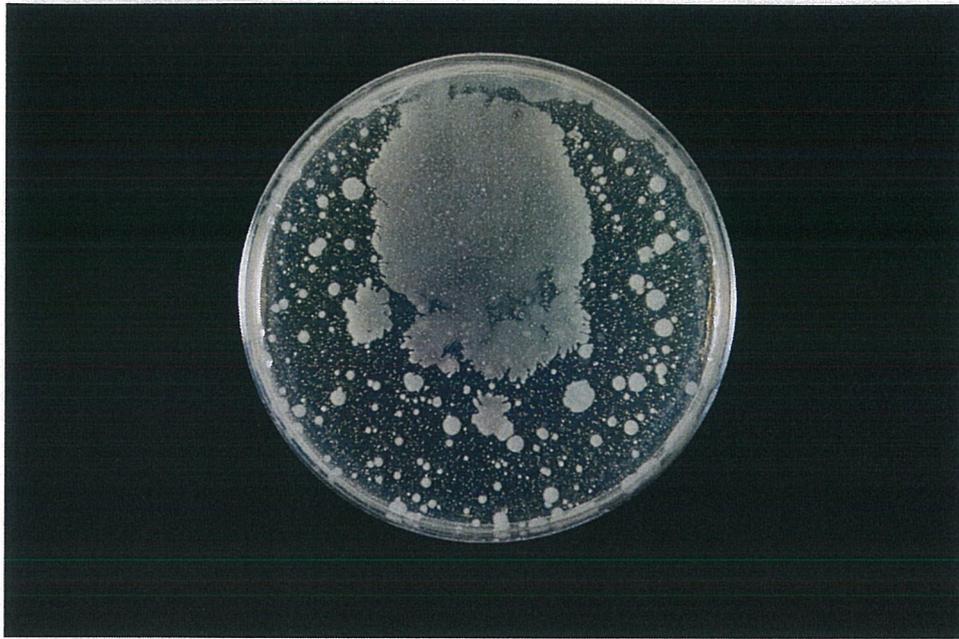


写真-1 大腸菌(O157:H7) 開始時 対照  
(試験液 0.1 ml)

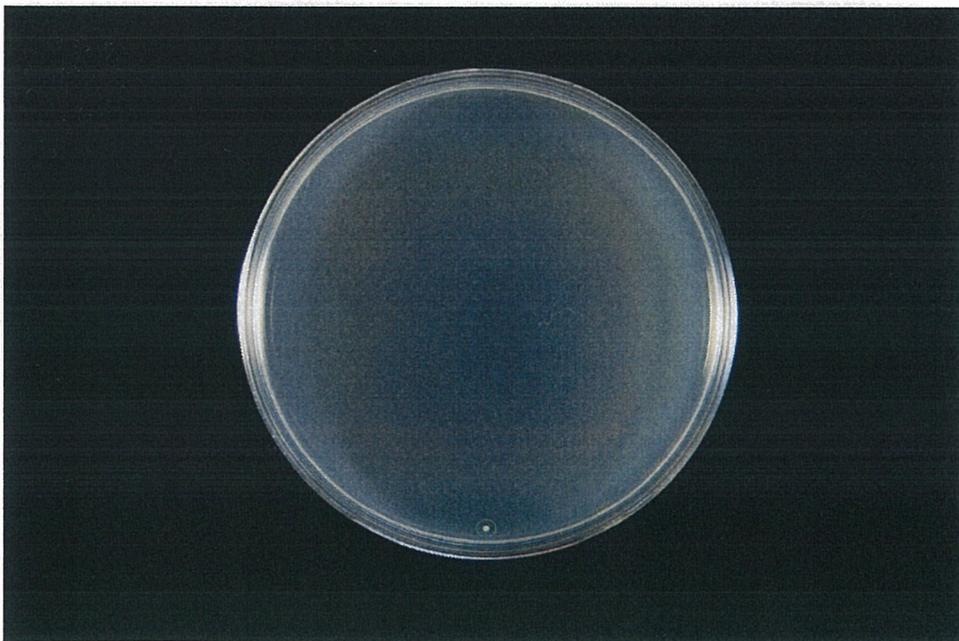


写真-2 大腸菌(O157:H7) 30秒後 検体  
(試験液 0.1 ml)

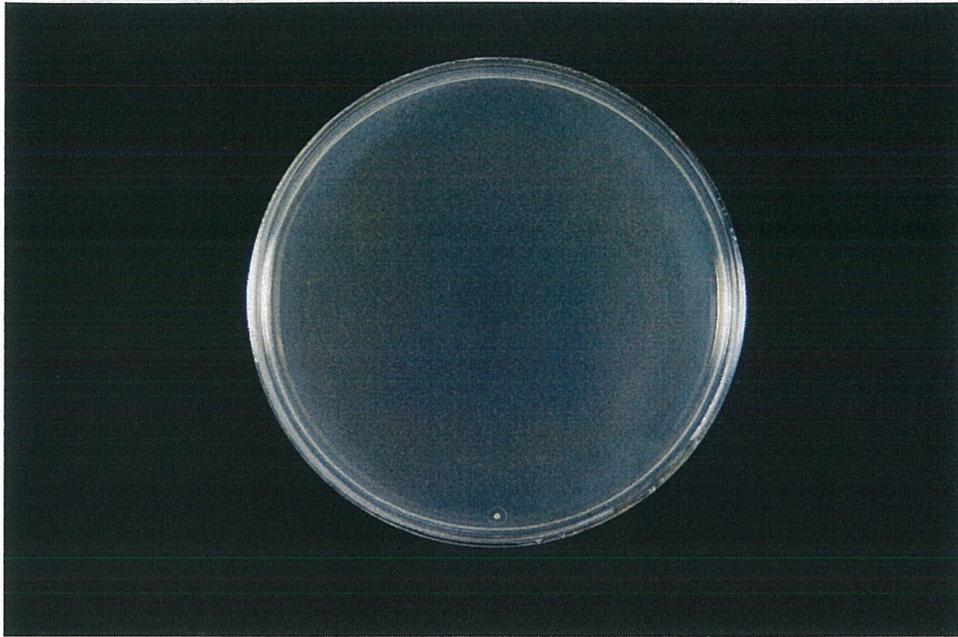


写真-3 大腸菌(O157:H7) 1分後 検体  
(試験液 0.1 ml)

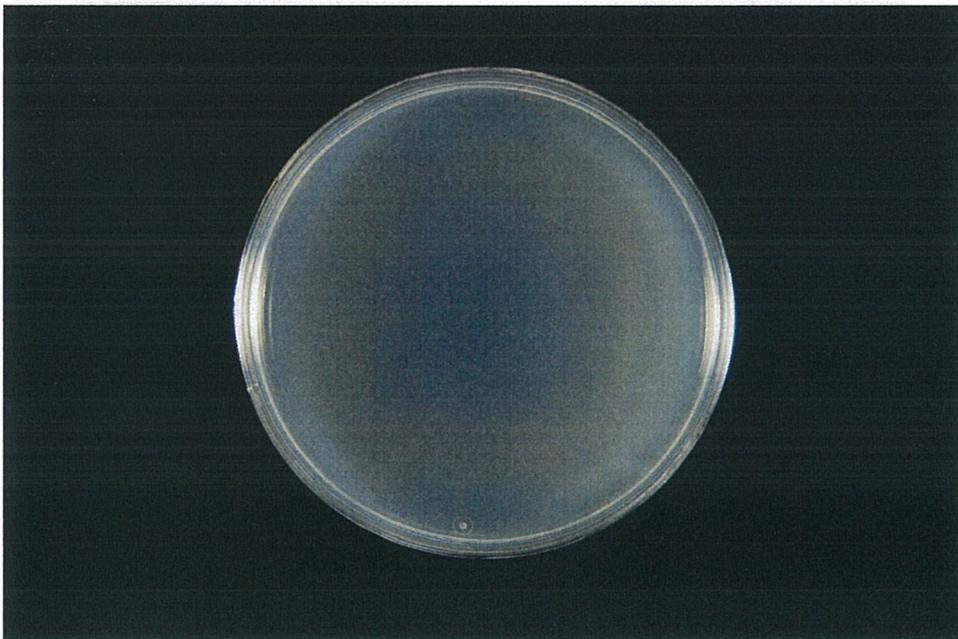


写真-4 大腸菌(O157:H7) 3分後 検体  
(試験液 0.1 ml)



写真-5 大腸菌(O157:H7) 3分後 対照  
(試験液 0.1 ml)

以 上